

審査講評

全体講評

岡山県良質堆きゅう肥共励会は今年が2回目で、20点の出品があった。20点の内訳は、堆肥センターが6点、農家が14点となっている。

本共励会では、牛ふんを主体とする堆肥を審査対象としたが、純粹に牛ふんだけでなく、豚、鶏と混合した堆肥が多く見受けられた。また、副資材についても、オガクズ、バーク、モミガラ、戻し堆肥など千差万別であった。

さて、出品された堆肥の品質であるが、品質判定得点の平均点は75点という結果であり、この平均点数は、第1回と同じであった。但し、昨年度に比べ、下位における得点はアップしており、技術レベルの底上げがなされたものと思われる。

また、堆肥センターでも、農家でも、品質的には遜色のない堆肥が生産されていた。

判定基準別講評

臭気

「無臭、堆肥臭」のものが出品点数20点のうち6点（全体の30%）であり、「ややアンモニア臭等臭気を感じる」、「アンモニア臭等臭気を感じる」ものが残り7割あった。

ただし、生糞臭を感じるものは、今回の出品にはなかった。

手触り

「ベタベタとした感じ、強く握ると指の間から水が滴る」ものは全くなかった。しかし、出品点数の半数が「強く握ると手のひらにかなりつく、手で握ると固まり、放しても割れない」ものであった。

色合い

出品点数20点すべてが、堆肥のカラースタンダードの黒褐色（No.329）より黒いものであった。

こまつな発芽試験

対対照発芽率は99.5%であり、出品すべて20点満点であった。

C/N比

平均が19.3であった。出品のうち2点を除いて、残り18点が10点満点であった。

EC（電気伝導度）

平均が6.44mS/cmで、高めの数値となった。そのため、10点満点で平均点数4.3と低い点数であった。

乾物中の有機物含量

平均で65.86%で、10点満点で、平均点数8.25点であった。

上位入賞者

最優秀賞「びほく農業協同組合堆肥センター」

この堆肥は乳牛ふんにモミガラと戻し堆肥を用いて製造されている。

モミガラが多いこともあって、色合いで若干点数が低かったが、臭気については最高点の18点であった。

また、こまつな発芽試験、C/N比、EC、有機物についても、50点満点中45点であり、非常に品質のよいものであった。

優秀賞「土屋 守」

色合い，堆積期間では，どちらも満点であったが，わずか 0.5 点差で次点だった。

こまつな発芽試験，C/N 比，EC，有機物での得点は，最優秀賞と同様に 50 点満点中 45 点であったが，わずかに臭気，手触りで得点が及ばなかった。

手触りでは，強く握ると固まり，放しても割れなかったので，点数が低くなってしまったが，機械散布を前提として考えれば，問題はないと思われる。

優秀賞「有限会社哲多町堆肥センター」

有限会社哲多町堆肥センターの堆肥も，前 2 点と遜色のない堆肥であった。こまつな発芽試験，C/N 比，有機物では，満点であったが，EC が高かったため，点数は低かった。それ以外では，臭気，手触り，色合い，堆積期間など，バランスの取れた良い堆肥だといえる。